

都中社研 会報

東京都中学校社会科教育研究会	機久也行 巖澄
発行者	山田田橋 原師
編集長	高石村 藤原
副編集長	石村 藤原
編集	石村 藤原
編集	石村 藤原
編集	石村 藤原

会長あいさし

東京都中学校社会科教育研究会 会長 高山知機



平成二十九年五月二十九日に行われた「平成二十九年東京都中学校社会科教育研究会総会」において、会長に選出・承認されました。小平市立小平第五中学校長、高山知機（たかやま ともしき）でございます。この三年間は、全国中学校社会科教育研究会の事務局長を拝命し、おもに研究大会の運営や連絡・調整に携わって参りまして、肝心の研究が「お留守」の状況にありました。このたび、会長という身に余る大役を仰せつかり、大変戸惑っておりますが、会員の先生方にご支援をいただきつつ、会の発展と研究活動の充実、生徒の学力向上のために努力して参りますので、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

今年度も、平成三十三年度に予定されている東京大会を見据え、研究テーマ「国際社会を生き抜くこれからの生徒を育てる社会科学習の在り方」のもと、各分野の専門委員会、精力的に研究が進められていきます。改訂学習指導要領も示され、平成三十一年度から三十二年度の移行期、平成三十三年度からの本格実施へと各学校、各先生方も動き始めていらっしゃるものと存じます。今年七月に行われた「小・中学校新教育課程説明会中央説明会」において、文部科学省の高橋道和（みちやす）初等中等教育局長は、一般の改定のポイントとして、(1) 法を踏まええた改訂、(2) 自立的に生きる生徒の育成、(3) 社会に開かれた教育の具現化、の三点を挙げられています。このことを踏まえ、授業において重視する視点として、(1) 思考力を育成するための授業の創意工夫、(2) 生涯にわたる学び続ける態度を育てるための授業改善、(3) 教科横断的な授業展開(カリキュラムマネジメント)の三点を挙げられています。

おそらくこれまでに、各先生方が取り組まれていた研究内容、研究方向と軌を一にするものと思われまます。また、社会科に関して見ると、指導要領の解説の中に、配慮の必要な生徒に関する記述「第3 指導計画の作成と内容の取扱い1(4)」や、特定の事柄の強調や一面的な見解に基づいた指導への注意喚起「同 2(4)」など、これまでは無かった配慮事項も見受けられます。

大きく変動する「国際社会」を生き抜くこれからの生徒を育てるために、「知識・理解」と「技能・活用」とのバランスの取れた学習を提供するためには、どのような授業がふさわしいのか、ひいては「豊かな心」と「たくましく生きる力」を兼ね備えた人間を育成するためには、どのような社会科教育が必要か、先生方と共に考え、悩み、歩んで参りたいと考えております。

七十年ぶりに公職選挙法が改正され、選挙権が十八才に引き下げられ、生徒たちは中学校卒業後、ほぼ「モラトリアム期間」無しに、民主主義社会の形成者としての役割を担うことが求められることとなります。国内情勢、国際情勢共に、大変なスピードで動き、変化する時代になってきています。このような激動の時代を生き抜く子供たちのために、私たち社会科教育を担う教員の進むべき道はどの方角か、各先生方の英知を結集し、東京都社会科教育研究会の活動を進めて参りたいと存じます。どうかよろしくお願い申し上げます。

総会の講演について

都中社研 副会長 荒井亮宏

(墨田区立墨田中学校長)

去る五月二十九日(月)に行われた都中社総会の講演会で、教科調査官の濱野清先生から、新しい学習指導要領についてお話しをさせていただきました。地理、歴史、公民の三分野にかかわる全体的なお話の後で、地理的分野を中心に具体的な改訂の内容について御説明がありました。

はじめに、次期学習指導要領の内容について、「社会的な見方・考え方」を働かせてどのように授業を実践していくかが今回の改訂の目玉であると強調されてきました。次期学習指導要領においては、主体的・対話的で深い学びの実践が求められていることから「見方・考え方を働かせた」学習を展開する必要性があることを感じました。

次に、地理的分野の内容について、改訂の要点に関するお話がありました。特に強調されていたのは、「世界の諸地域学習における「地球的課題」の視点の導入と、日本の諸地域学習における考察の仕方の柔軟化についてです。

世界の諸地域の学習において、情報化やグローバル化を背景に、「地球的課題」の視点を「世界の諸地域」における追求の視点として位置付けるとのことでした。「地球的課題」については、例えば地球環境問題や居住・都市問題

など、グローバル化等の課題に対応したものを設定すること。そして、中学校一年生が関心をもって追究できる課題を設定することが必要であることが分かりました。

また、現行学習指導要領における「世界の様々な地域の調査」に関しては、次期学習指導要領における地域調査に関わる内容構成の見直しに伴い「地域調査の手法」と「地域の在り方」に再構築されました。

最後に「日本の諸地域」学習について触れ、「考察の仕方の柔軟化」に関わるお話が印象的でした。現行学習指導要領では、七つの考察の仕方が示され、すべて学習することになっていました。しかし、「次期学習指導要領では「自然環境」、「人口や都市・村落」、「産業」、「交通や通信」の考察の仕方が示され、生徒や学校の実態に応じて考察の仕方を考えることができることが分かりました。そして、地域区分についても、必ず七地域区分にこだわる必要がないことが分かりました。先生方のお話では、動態地誌的な学習を、地理的な見方・考え方を働かせて実践することが重要であり、広めていきたいという意図が感じられました。今回は貴重なお話をありがとうございました。

地域巡検に参加して

宮崎 宏明
(中央区立佃中学校)

昨年度は君津の製鉄所を見学しましたが、今年度も日本鉄鋼連盟のご厚意により、鹿島臨海工業地帯にある製鉄所を訪れました。

七月二十五日(火)、参加教員十一名とスタッフ三名、総勢十四名からなる一行は、午前十時には新日鐵住金鹿島製鐵所に到着しました。まずコミュニティホールに通され、製鉄所の概要や製鉄の仕組みについて講義を受けました。

鹿島臨海工業地帯と言えば、まずは掘込み港が頭に浮かび、砂地ということから不安定な印象がありますが、実は意外と地盤は安定しているそうです。工業地域の北側約三分の一にあるのが新日鐵住金鹿島製鐵所であり、その面積は約十万㎡で台東区や中央区の面積に匹敵します。しかし、そこで働く従業員は三千四百人程度とのこと、いかにオートメーション化が進んでいるかが分かります。

講義後、我々は作業着やヘルメットに身を包み、いよいよ現場見学に向かいます。通されたのは、鋼片を熱して大きな圧力を加え、薄く長くのぼすなどして様々な形の鋼材を作る熱延工場です。工場に入るなり、五十度にもなるという暑さに驚きました。千度を超えるという真っ

赤に焼けた鋼片が、機械を通るたびに長く引き延ばされ見学通路の横を通っていきます。工場を出たときには夏だというのに涼しく感じました。

今回勉強になったのは、「製鐵所」の「所」の読み方です。こちらの会社では「じょ」ではなく「しょ」と読むそうです。配付された資料もそのようにふりがなが書いてありました。また、「鉄」は金を失うと書くので、あえて「鐵」を使っているということも伺いました。

でも、何より印象に残ったのは、所員の方々が、自身の会社、技術、製品に誇りをもって仕事をしているということでした。帰りには近くの由緒ある鹿島神社を訪れました。国宝の「直刀」などを見学し、この地は古くから鉄との関わりが深かったことを理解しました。

こうした有意義な体験が授業に生かされることを期待しています。



夏季研修会に参加して

種藤 博
(大田区立南六郷中学校)

まだまだ暑さの厳しい8月末の午後、佃中学校にて赤坂寅夫先生より、主に若手教員向けに地理的分野の内容を中心としたご講演がありました。

最初に、学習指導要領の変遷についてお話がありました。赤坂先生が講師の時は、受講者が主体的に参加できるように、突然、指名される場合があります。私も過去に指名されたことがあり、緊張感を持ちつつ、ワクワクしながらお話を伺っていました。私は、「スプートニクショック」について聞かれ、何とか答えることができた。学習指導要領の変遷は、新学習指導要領の考え方に至る経緯を知るとともに、その特徴を知る上では重要な内容でした。

次に、地理的分野の目標・内容についてお話がありました。今回の改訂の目玉である「見方・考え方」についてお話がありました。「社会的現象の地理的な見方・考え方」は、例えば、「人間と自然環境との相互依存関係」等、我々教員にとっては難解な言葉のように見えました。しかし、新たな内容ではなく、現行学習指導要領を踏襲しているというお話を聞き、少し安心しました。

内容の話で印象的だったのは、「世界の諸地域」と「日本の諸地域」です。「世界の諸地域」では、「地球的課題」について、受講者とともに議論を深めました。例えば、地球環境問題、平和、人権問題など様々なテーマがあげられました。受講した社会科教員の専門や関心のある分野によって、「地球的課題」はいろいろあることが分かりました。

「日本の様々な地域」の学習について、内容構成が変わったことが話題になりました。現行学習指導要領の「身近な地域の調査」では、調査に必要な知識・技能を身に付けるとともに、実際に調査を行い、追究、発表をするなど、一つの単元であらゆる学習活動が示されています。しかし、新学習指導要領では、「日本の様々な地域」の最初で、調査に必要な知識・技能を身に付け、単元の最後「地域の在り方」で、追究活動を行う改訂がなされたことが分かりました。そして、この単元における「地域」は必ずしも学校区だけでなく、東京都全体、他の地域を扱っても良いことが分かりました。「地域の在り方」は、考察するだけでなく、「構想する」ことが重要であることを先生は強調されていました。内容が豊富で、しかも学校の授業のようで楽しく分かりやすいご講演でした。ありがとうございました。



平成二十九年 都中社研役員	会長	高山知機・小平小正第五
副会長	伊藤聡保・世田谷梅丘	荒井亮宏・大田石川台
副会長	関基雄・練馬八坂	中山徹・練馬豊玉第二
会計監査	佐藤政明・新宿西新宿	伊藤聡保・世田谷梅丘
研究部長	池下誠・練馬大泉西	入子彰子・文京音羽
副部長	三枝利多・目黒高松	藤田淳・港高松
研究部員	松本賢・昭島拜島	松井敏孝・北王子桜
	鈴木拓磨・墨田両国	千葉一品・中野第七
	中野英水・板橋赤塚第二	高田孝雄・足立竹の塚
三分野専門委員長	藤田琢治・板橋板橋第二	石田重久・中野第十一
歴史	村田雅也・足立第一	椎橋秀行・荒川第五
地理	藤原 巖・東久留米東	関真樹子・文京第六
公民	千葉一品・中野第七	高橋拓史・府中府中第九
編集部長	高橋真澄・東久留米東	宮崎宏明・中央
副部長	種藤 博・大田南六郷	高野祥一・白鷗高附属
編集部員	渡邊智紀・お茶の水附属	鈴木拓磨・墨田両国
	河合 仁・練馬中村	上田純一・中央晴海
	伊東賢治・中央	山崎俊輔・中央
	長井利光・江東大島西	丹 暁子・江東第三砂町
	福崎裕崇・荒川第四	歳納隼人・品川大崎
	石上和宏・板橋志村第二	小林誠・北
相談役	高岡麻美・府中第九	